

日銀の視点

今夏も新型コロナウイルスの第7波に襲われたものの、感染抑制と社会経済活動との両立が進む下、「3年ぶり」に開催されるイベントも多く、あちらこちらで人々の動きや笑顔が戻ってきているように感じる。一方で、物価に關するニュースが連日取り上げられ、生活上も値上がりを実感することが増えている。当事務所が10月3日に公表した短観（企業短期経済観測調査）の9月調査結果（茨城県分）でも、これらを含む明暗

日銀水戸事務所長 上野 淳

活気持って乗り越える

両面が見られた。まず、企業の業況判断DI（業況が「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値）を見ると、前回6月調査のプラス3から今回はプラス6に改善した。製造業では、

次に、2022年度の設備投資計画を見ると、投資に慎重なスタンスの企業がある一方で、生産能力増強投資、商業施設の新設・改装、デジタル化・脱炭素化関係投資なども見られ、全体では、前年度を大きく上回る計画が維持さ

に中小企業はマイナス11.2%となっており、仕入れ価格上昇の影響が、より強く表れている可能性がある。以上の点などを踏まえると、今回の調査結果を見ても、県内景気の持ち直し基調は維持されているとみられる。もっとも、先行きの不確実性は引き続き高く、特に、仕入れ価格上昇が企業収益に与える影響については、価格転嫁の状況や、価格上昇が必要に与える影響を含めて、注視していく必要がある。また、海外経済の動向にも注視を怠れない。

難しい経済環境が続くが、それを乗り越えていくためにも、人々の活気を維持することは重要だ。その点、本県では、今年、新たな音楽フェスや常設寄席が立ち上がった。秋を迎え、行動制限がない下での季節的なイベントが目白押しだ。大規模な観光キャンペーンである茨城デスティネーションキャンペーン（DC）のPRDCも始まった。もちろん、課題や苦勞も多いと察しているが、挑戦する気概を失わずに活気を生み出し続ける茨城県の魅力度は、着任して1年数カ月の私にとって、ますます高まるばかりだ。（次回は11月12日掲載）

中国でのロックダウンの影響緩和などから8波改善して、プラス9となった。非製造業も、第7波の下でも2波の悪化にとどまり、プラス2と、2期連続で「良い」との回答が上回った。

中国でのロックダウンの影響緩和などから8波改善して、プラス9となった。非製造業も、第7波の下でも2波の悪化にとどまり、プラス2と、2期連続で「良い」との回答が上回った。

中国でのロックダウンの影響緩和などから8波改善して、プラス9となった。非製造業も、第7波の下でも2波の悪化にとどまり、プラス2と、2期連続で「良い」との回答が上回った。